

本科 2 期 11 月度

解答

Z 会東大進学教室

高 2 選抜東大数学

高 2 東大数学



2 1 章 数列 (1)

問題

【1】初項 1, 末項 6, 項数 $n+2$ の等差数列の和が 42 であるから

$$\begin{aligned}\frac{1+6}{2} \times (n+2) &= 42 \\ \therefore 7(n+2) &= 84 \\ \therefore n &= 10 \quad (\text{答})\end{aligned}$$

すると, 第 12 項が 6 であるから, 公差を d とおくと

$$\begin{aligned}1 + (12-1)d &= 6 \\ \therefore d &= \frac{5}{11} \quad (\text{答})\end{aligned}$$

【2】数列 $\{a_{2n}\}$ は, 初項 $\sqrt{2}$, 公比 $(\sqrt{2})^2$ の等比数列であるから

$$\sum_{k=1}^{10} a_{2k} = \sqrt{2} \cdot \frac{2^{10} - 1}{2 - 1} = 1023\sqrt{2} \quad (\text{答})$$

そして, $a_k = (\sqrt{2})^{k-1}$ より

$$\frac{1}{a_k} = \frac{1}{(\sqrt{2})^{k-1}} = \left(\frac{1}{\sqrt{2}}\right)^{k-1}$$

であるから, 数列 $\left\{\frac{1}{a_n}\right\}$ は初項 $\frac{1}{a_1} = 1$, 公比 $\frac{1}{\sqrt{2}}$ の等比数列となり

$$\begin{aligned}\sum_{k=1}^{10} \frac{1}{a_k} &= \frac{1 - \left(\frac{1}{\sqrt{2}}\right)^{10}}{1 - \frac{1}{\sqrt{2}}} = \frac{1 - \left(\frac{1}{2}\right)^5}{\frac{\sqrt{2}-1}{\sqrt{2}}} \\ &= \frac{31}{32} \cdot \frac{\sqrt{2}(\sqrt{2}+1)}{(\sqrt{2}-1)(\sqrt{2}+1)} = \frac{31(2+\sqrt{2})}{32} \quad (\text{答})\end{aligned}$$

【3】16, a , b がこの順に等差数列をなすから

$$2a = b + 16$$

a , b , 72 がこの順に等比数列をなすから

$$b^2 = 72a$$

以上から

$$\begin{aligned}b^2 &= 36(b+16) \\ b^2 - 36b - 12 \cdot 48 &= 0 \\ (b+12)(b-48) &= 0 \\ \therefore b &= -12, 48\end{aligned}$$

よって

$$(a, b) = (2, -12), (32, 48) \quad (\text{答})$$

【4】 $\{a_n\}$ の初項を a ，公差を d とする．

$d > 0$ のとき， S_n はいくらでも大きくなるので題意をみたさない．

$d = 0$ のとき， $a > 0$ ならば S_n はいくらでも大きくなり， $a \leq 0$ ならば任意の n について

$$S_n \leq 0$$

となるので題意をみたさない．

$d < 0$ のとき， $a \leq 0$ ならば任意の n について

$$S_n \leq 0$$

となるので題意をみたさない．

以上より， $d < 0$ ， $a > 0$ である．

さて，自然数 k について， $a_k > 0$ となる最大の k を m とおく． $d < 0$ ， $a > 0$ より m はただ 1 つ存在し，題意より

$$\sum_{k=1}^m a_k = S_m = 22$$

である．

ここで，題意をみたす $\{a_n\}$ の和 S_n について

$$S_{m-2} \leq S_{m-1} \leq S_m \geq S_{m+1} \geq S_{m+2}$$

であるから，次のいずれかが成立する．

(i) $S_{m-2} = 20$ ， $S_{m-1} = 21$ ， $S_m = 22$

(ii) $S_m = 22$ ， $S_{m+1} = 21$ ， $S_{m+2} = 20$

(iii) $S_{m-1} = 20$ ， $S_m = 22$ ， $S_{m+1} = 21$

(iv) $S_{m-1} = 21$ ， $S_m = 22$ ， $S_{m+1} = 20$

(i) から (iv) のそれぞれについて，

(i) のとき

$$a_m = S_m - S_{m-1} = 1$$

$$a_{m-1} = S_{m-1} - S_{m-2} = 1$$

であるがこのとき， $d = 0$ となり不適．

(ii) のとき，(i) と同様に， $d = 0$ となり不適．

(iii) のとき

$$a_{m+1} = S_{m+1} - S_m = -1$$

$$a_m = S_m - S_{m-1} = 2$$

より

$$d = a_{m+1} - a_m = -3$$

となる．このとき

$$a_m = a + (m-1)(-3) = 2 \iff a = 3m-1$$

であるから

$$S_m = \frac{a + a_m}{2}m = \frac{3m+1}{2}m = 22 \quad \therefore (3m+1)m = 44 \cdots \textcircled{1}$$

ここで、自然数 m に対して $(3m+1)m$ は単調増加であり

$$(3 \cdot 3 + 1)3 = 30, \quad (3 \cdot 4 + 1)4 = 52$$

であるから、 $\textcircled{1}$ をみたす自然数 m は存在しない.

(iv) のとき

$$a_{m+1} = S_{m+1} - S_m = -2$$

$$a_m = S_m - S_{m-1} = 1$$

より

$$d = a_{m+1} - a_m = -3$$

となる. このとき

$$a_m = a + (m-1)(-3) = 1 \quad \Longleftrightarrow \quad a = 3m - 2$$

であるから

$$S_m = \frac{a + a_m}{2}m = \frac{3m-1}{2}m = 22 \quad \therefore (3m-1)m = 44$$

ここで、自然数 m に対して $(3m-1)m$ は単調増加であり

$$(3 \cdot 4 - 1)4 = 44$$

であるから、 $m = 4$, $a = 10$.

以上から、求める $\{a_n\}$ の一般項は、 $a_n = 13 - 3n$. (答)

【5】 n を 3 で割った余りで分けて求める.

$$\frac{23}{111} = 0.207207207 \dots = 0.\dot{2}0\dot{7}$$

であるから, 小数第 n 位の数 a_n は自然数 m に対して

$$a_{3m-2} = 2, a_{3m-1} = 0, a_{3m} = 7$$

となる. ここで

$$T_m = \frac{a_{3m-2}}{3^{3m-2}} + \frac{a_{3m-1}}{3^{3m-1}} + \frac{a_{3m}}{3^{3m}}$$

とおくと

$$T_m = \frac{2}{3^{3m-2}} + \frac{0}{3^{3m-1}} + \frac{7}{3^{3m}} = \frac{25}{3^{3m}} = \frac{25}{27} \cdot \left(\frac{1}{27}\right)^{m-1}$$

このとき

$$S_n = \sum_{k=1}^n \frac{a_k}{3^k}$$

とおけば, 自然数 m に対して

$$\begin{aligned} S_{3m} &= \frac{a_1}{3^1} + \frac{a_2}{3^2} + \frac{a_3}{3^3} + \dots + \frac{a_{3m-2}}{3^{3m-2}} + \frac{a_{3m-1}}{3^{3m-1}} + \frac{a_{3m}}{3^{3m}} \\ &= T_1 + T_2 + \dots + T_m \\ &= \frac{\frac{25}{27} \left\{ 1 - \left(\frac{1}{27}\right)^m \right\}}{1 - \frac{1}{27}} = \frac{25}{26} \left(1 - \frac{1}{3^{3m}} \right) \end{aligned}$$

そして

$$\begin{aligned} S_{3m-1} &= S_{3m} - \frac{a_{3m}}{3^{3m}} \\ &= \frac{25}{26} \left(1 - \frac{1}{3^{3m}} \right) - \frac{7}{3^{3m}} \\ &= \frac{1}{26} \left(25 - \frac{25 + 182}{3^{3m}} \right) \\ &= \frac{1}{26} \left(25 - \frac{23}{3^{3m-2}} \right) \\ S_{3m-2} &= S_{3m-1} - \frac{a_{3m-1}}{3^{3m-1}} \\ &= \frac{1}{26} \left(25 - \frac{23}{3^{3m-2}} \right) - \frac{0}{3^{3m-1}} \\ &= \frac{1}{26} \left(25 - \frac{23}{3^{3m-2}} \right) \end{aligned}$$

したがって, 求める和は

$$\begin{cases} n \text{ が } 3 \text{ で割ると } 1 \text{ 余る数のとき} & \frac{1}{26} \left(25 - \frac{23}{3^n} \right) \\ n \text{ が } 3 \text{ で割ると } 2 \text{ 余る数のとき} & \frac{1}{26} \left(25 - \frac{23}{3^{n-1}} \right) \\ n \text{ が } 3 \text{ の倍数のとき} & \frac{25}{26} \left(1 - \frac{1}{3^n} \right) \end{cases} \quad (\text{答})$$

添削課題

【1】(1) $1, r^2, r^3$ はこの順に等差数列であるから

$$1 + r^3 = 2r^2$$

$$\therefore r^3 - 2r^2 + 1 = 0$$

$$\therefore (r-1)(r^2 - r - 1) = 0$$

$r \neq 1$ より

$$r^2 - r - 1 = 0 \dots \textcircled{1}$$

$r > 0$ より

$$r = \frac{1 + \sqrt{5}}{2} \quad (\text{答})$$

さて

$$2 < \sqrt{5} < 3 \iff \frac{3}{2} < \frac{1 + \sqrt{5}}{2} < 2$$

であるから

$$1 < r < 2$$

また, ① より $r^2 = r + 1$ であるから

$$2 < r + 1 = r^2$$

以上より

$$r < 2 < r^2 \quad (\text{答})$$

(2) $1, r^m, r^{m+2}$ がこの順に等差数列であるとする

$$1 + r^{m+2} = 2r^m$$

$$\iff 1 = 2r^m - r^{m+2}$$

$$\iff 1 = r^m(2 - r^2) \dots \textcircled{2}$$

ここで, (1) より $2 - r^2 < 0$ であるから, (②の右辺) < 0 となり, ②の等式は成立しない.

よって, $1, r^m, r^{m+2}$ がこの順に等差数列であることはない. (証明終)

(3) $1, r^m, r^n$ がこの順に等差数列であるとする, $r > 1$ より, $r^m > 1$ であるから公差は正. よって $r^m < r^n \iff m < n$ が必要.

また, (2) と同様にして

$$1 + r^n = 2r^m \iff 1 = r^m(2 - r^{n-m}) \dots \textcircled{3}$$

ここで, (1) より $n - m > 2$ のとき $r^{n-m} > 2$ であり, (③の右辺) < 0 であるから ③は不成立. よって, $n - m = 1$ が必要.

このとき

$$1 + r^{m+1} = 2r^m \iff 1 = r^m(2 - r)$$

一方

$$1 + r^3 = 2r^2 \iff 1 = r^2(2 - r)$$

であるから

$$r^m(2 - r) = r^2(2 - r)$$

$r < 2$ より

$$r^m = r^2$$

$r \neq 1$ より

$$m = 2$$

以上から、 $1, r^m, r^n$ がこの順に等差数列であるような自然数の組 (m, n) は $(2, 3)$ に限る.

(証明終)

22章 数列 (2)

問題

【1】(1) S は

$$S = \sum_{k=1}^n (n-k)^2 = (n-1)^2 + (n-2)^2 + \cdots + 1^2 + 0^2$$

と表されるから、加える順序を逆にすると

$$\begin{aligned} S &= 1^2 + 2^2 + \cdots + (n-1)^2 \\ &= \frac{1}{6}(n-1)n\{2(n-1)+1\} \\ &= \frac{1}{6}n(n-1)(2n-1) \quad (\text{答}) \end{aligned}$$

(2) 和の記号 $\sum$ を用いると、 S は

$$\sum_{k=1}^{n-1} (2k-1)(n-k)$$

と表せる、ここで、 $(2k-1)(n-k)$ は $k=n$ のとき 0 だから、この項を加えても S の値は変わらないことに注意すると

$$\begin{aligned} S &= \sum_{k=1}^n (2k-1)(n-k) \\ &= \sum_{k=1}^n \{-2k^2 + (2n+1)k - n\} \\ &= -2 \cdot \frac{n(n+1)(2n+1)}{6} + (2n+1) \cdot \frac{n(n+1)}{2} - n \cdot n \\ &= \frac{1}{6}n\{(n+1)(2n+1) - 6n\} \\ &= \frac{1}{6}n(n-1)(2n-1) \quad (\text{答}) \end{aligned}$$

(3) 和の記号 $\sum$ を用いて S を表すと

$$\begin{aligned} S &= \sum_{k=1}^n \frac{1}{\sqrt{2k-1} + \sqrt{2k+1}} \\ &= \frac{1}{2} \sum_{k=1}^n (\sqrt{2k+1} - \sqrt{2k-1}) \\ &= \frac{1}{2}(\sqrt{2n+1} - 1) \quad (\text{答}) \end{aligned}$$

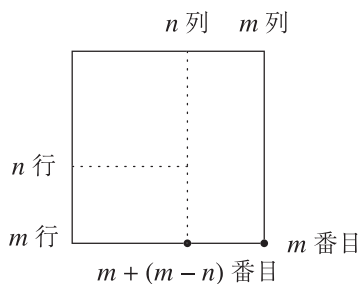
【2】(1) 自然数の列を

$$1 \mid 2, 3, 4 \mid 5, 6, 7, 8, 9 \mid 10, 11, \dots$$

と群分けすると、第 n 群には $2n - 1$ 個の項があるから、第 n 群の末項までの項数は

$$\sum_{k=1}^n (2k - 1) = 2 \cdot \frac{n(n+1)}{2} - n = n^2$$

図 22.1



(i) $m \geq n$ のとき

上から m 行目、左から n 列目の数は第 m 群の $m + (m - n)$ 番目の項であるから (図 22.1)

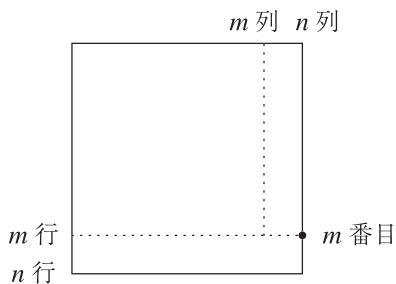
$$(m - 1)^2 + (m + m - n) = m^2 - n + 1$$

(ii) $m < n$ のとき

上から m 行目、左から n 列目の数は第 n 群の m 番目の項であるから (図 22.2)

$$(n - 1)^2 + m = n^2 - 2n + m + 1$$

図 22.2



したがって、求める数は

$$\begin{cases} m \geq n \text{ のとき } m^2 - n + 1 \\ m < n \text{ のとき } n^2 - 2n + m + 1 \end{cases} \quad (\text{答})$$

(2) 200 が第 n 群にあるとすると

$$(n - 1)^2 < 200 \leq n^2$$

が成立する.

ここで、数列 $\{n^2\}$ ($n = 1, 2, 3, \dots$) は増加列で

$$14^2 = 196, 15^2 = 225$$

であるから

$$n = 15$$

となり、200 は第 15 群の 4 番目の項である。

すなわち、200 は上から 4 行目、左から 15 列目の位置にある。 (答)

(3) 対角線は第 n 行第 n 列と表されるから、その一般項は、(1) の結果において $m = n$ と
して

$$n^2 - n + 1 \quad (\text{答})$$

【3】 題意の格子点が含まれる領域を

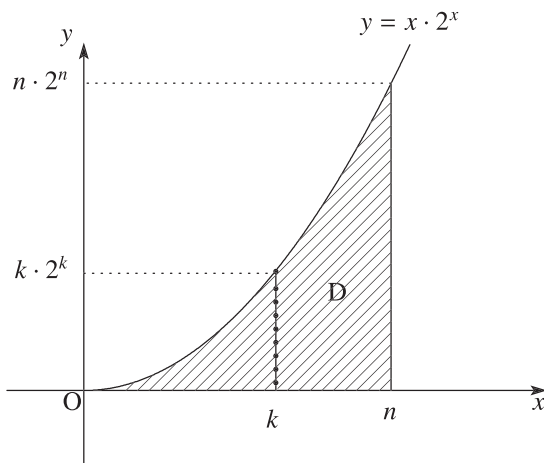
$$D = \left\{ (x, y) \mid x > 0, y > 0, \log_2 \frac{y}{x} \leq x \leq n \right\}$$

とおく。 $x > 0, y > 0$ のもとで

$$\begin{aligned} \log_2 \frac{y}{x} \leq x &\iff \frac{y}{x} \leq 2^x \\ \therefore y &\leq x \cdot 2^x \end{aligned}$$

であるから、領域 D は図 22.3 の斜線部分となる。ただし、境界は x 軸 (直線 $y = 0$) を除いてすべて含む。

図 22.3



そこで、直線 $x = k$ (k は $0 < k \leq n$ をみたす整数) から領域 D によって切り取られる部分にある格子点の個数を a_k とおくと、いま

$$k \cdot 2^k : \text{整数}$$

であるから、点 $(k, k \cdot 2^k)$ は格子点で

$$a_k = k \cdot 2^k$$

よって、求める格子点の個数 S は

$$S = \sum_{k=1}^n a_k = \sum_{k=1}^n k \cdot 2^k$$

と表せる。ここで、 S と $2S$ を 2 の累乗の項をそろえて並べると

$$\begin{array}{rcl} S & = & 1 \cdot 2^1 + 2 \cdot 2^2 + \cdots + n \cdot 2^n \\ 2S & = & 1 \cdot 2^2 + \cdots + (n-1) \cdot 2^n + n \cdot 2^{n+1} \end{array}$$

となるから、 2 式の辺々をひくと

$$\begin{aligned} -S &= 2 + 2^2 + \cdots + 2^n - n \cdot 2^{n+1} \\ &= \frac{2(2^n - 1)}{2 - 1} - n \cdot 2^{n+1} \\ &= (1 - n) \cdot 2^{n+1} - 2 \end{aligned}$$

ゆえに、求める格子点の個数は

$$S = (n - 1) \cdot 2^{n+1} + 2 \quad (\text{答})$$

【4】 (1) 与式より

$$a_n = \sum_{k=1}^n \left\{ \sum_{j=1}^k \left(\sum_{i=1}^j i \right) \right\} = \sum_{k=1}^n \left\{ \sum_{j=1}^k \frac{1}{2} j(j+1) \right\}$$

ここで

$$j(j+1) = \frac{1}{3} \{j(j+1)(j+2) - (j-1)j(j+1)\}$$

だから

$$\begin{aligned} a_n &= \sum_{k=1}^n \left[\frac{1}{2} \sum_{j=1}^k \frac{1}{3} \{j(j+1)(j+2) - (j-1)j(j+1)\} \right] \\ &= \frac{1}{6} \sum_{k=1}^n k(k+1)(k+2) \end{aligned}$$

ここで、上と同様にして考えると

$$k(k+1)(k+2) = \frac{1}{4} \{k(k+1)(k+2)(k+3) - (k-1)k(k+1)(k+2)\}$$

だから

$$\begin{aligned} a_n &= \frac{1}{6} \sum_{k=1}^n \frac{1}{4} \{k(k+1)(k+2)(k+3) - (k-1)k(k+1)(k+2)\} \\ &= \frac{1}{24} n(n+1)(n+2)(n+3) \quad (\text{答}) \end{aligned}$$

(2)

$$b_n = \sum_{k=1}^n \frac{1}{a_k} = \sum_{k=1}^n \frac{24}{k(k+1)(k+2)(k+3)}$$

ここで

$$\frac{1}{k(k+1)(k+2)} - \frac{1}{(k+1)(k+2)(k+3)} = \frac{3}{k(k+1)(k+2)(k+3)}$$

だから

$$\begin{aligned} b_n &= 8 \sum_{k=1}^n \left\{ \frac{1}{k(k+1)(k+2)} - \frac{1}{(k+1)(k+2)(k+3)} \right\} \\ &= 8 \left\{ \frac{1}{1 \cdot 2 \cdot 3} - \frac{1}{(n+1)(n+2)(n+3)} \right\} \\ &= \frac{4n(n^2 + 6n + 11)}{3(n+1)(n+2)(n+3)} \quad (\text{答}) \end{aligned}$$

【5】 (1) $a_k = m$ とすると

$$\begin{aligned} m - \frac{1}{2} &< \sqrt{k} < m + \frac{1}{2} \\ \left(m - \frac{1}{2}\right)^2 &< k < \left(m + \frac{1}{2}\right)^2 \\ m^2 - m + \frac{1}{4} &< k < m^2 + m + \frac{1}{4} \cdots \textcircled{1} \end{aligned}$$

なので、これをみたす自然数 k は

$$k = m^2 - m + 1, m^2 - m + 2, \dots, m^2 + m$$

の $2m$ 個である。よって

$$\begin{cases} a_k = 1 \text{ となるのは, } k = 1, 2 \text{ の } 2 \text{ 個} \\ a_k = 2 \text{ となるのは, } k = 3, 4, 5, 6 \text{ の } 4 \text{ 個} \\ a_k = 3 \text{ となるのは, } k = 7, 8, 9, 10, 11, 12 \text{ の } 6 \text{ 個} \end{cases}$$

であるから

$$\sum_{k=1}^{12} a_k = 2 \times 1 + 4 \times 2 + 6 \times 3 = 28 \quad (\text{答})$$

(2) ① の不等式を用いて a_{1998} を求める。 m が自然数であることに注意して

$$\begin{aligned} m^2 - m + \frac{1}{4} &< 1998 < m^2 + m + \frac{1}{4} \\ \iff m^2 - m < 1998 \leq m^2 + m \\ \iff m(m-1) < 1998 \leq m(m+1) \cdots \textcircled{2} \end{aligned}$$

ここで、数列 $\{m(m+1)\}$ ($m = 1, 2, 3, \dots$) は増加列で

$$44 \cdot 45 = 1980, 45 \cdot 46 = 2070$$

であるから、② をみたす自然数 m は $m = 45$ に限るので

$$a_{1998} = 45$$

である。また、 $a_k = 45$ となる最初の k は

$$k = 45^2 - 45 + 1 = 1981$$

であるから

$$\sum_{k=1}^{1998} a_k = \sum_{m=1}^{44} (2m \cdot m) + (1998 - 1981 + 1) \times 45 = 59550 \quad (\text{答})$$

添削課題

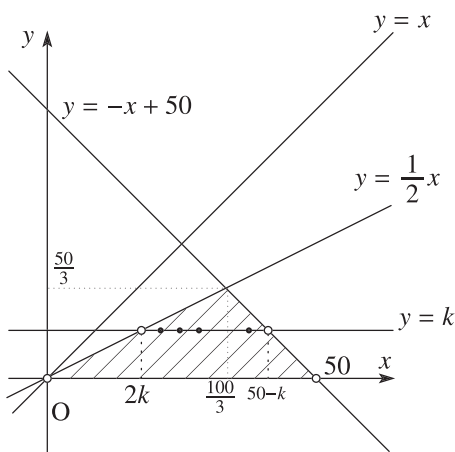
【1】 x, y を整数として, 3 辺の長さを $x-y, x, x+y$ ($x > y \geq 0 \cdots \textcircled{1}$) とおくと, 3 辺の長さがいずれも 50 より小さいから, $\textcircled{1}$ の下で

$$0 < x-y \leq x \leq x+y < 50 \cdots \textcircled{2}$$

また, 3 角形の成立条件より

$$(x-y) + x > x+y \quad \therefore \quad y < \frac{x}{2} \cdots \textcircled{3}$$

図 1.1



$\textcircled{1}$ から $\textcircled{3}$ を同時にみたす領域は図 1.1 の斜線部分となる. ただし, 境界は x 軸のみ含む (点 $(0, 0)$, $(50, 0)$ は除く). この領域内の格子点の個数を求める.

直線 $y = k$ ($k = 0, 1, 2, \dots, 16$) 上の格子点の個数 a_k は

$$a_k = 50 - k - 2k - 1 = 49 - 3k$$

数列 $\{a_k\}$ は初項 49, 公差 -3 の等差数列なので, 格子点の個数は, $\frac{17(49+1)}{2} = 425$ (個).

よって, 求める 3 角形の個数は, 425 個. (答)

2 3 章 漸化式

問題

【1】(1) 漸化式の両辺に 2^n をかけると

$$2^n a_{n+1} = 2^{n-1} a_n + n$$

したがって、 $2^{n-1} a_n = b_n$ ($n \geq 1$) とおくと

$$b_{n+1} = b_n + n \text{ かつ } b_1 = a_1$$

$$\therefore b_1 = 2, b_{n+1} - b_n = n \quad (n \geq 1)$$

よって $n \geq 2$ のとき

$$\begin{aligned} b_n &= b_1 + \sum_{k=1}^{n-1} (b_{k+1} - b_k) \\ &= 2 + \sum_{k=1}^{n-1} k = 2 + \frac{1}{2}n(n-1) \\ &= \frac{n^2 - n + 4}{2} \end{aligned}$$

であり、この結果は $n = 1$ のときを含めて正しい。よって

$$a_n = \frac{b_n}{2^{n-1}} = \frac{n^2 - n + 4}{2^n} \quad (n \geq 1) \quad (\text{答})$$

(2) 漸化式の両辺を 3^n で割ると

$$\frac{a_{n+1}}{3^n} = \frac{2}{3} \cdot \frac{a_n}{3^{n-1}} + 1$$

よって、 $\frac{a_n}{3^{n-1}} = b_n$ ($n \geq 1$) とおくと

$$b_{n+1} = \frac{2}{3}b_n + 1$$

これは

$$b_{n+1} - 3 = \frac{2}{3}(b_n - 3)$$

と変形できて、 $\{b_n - 3\}$ は公比 $\frac{2}{3}$ の等比数列より

$$b_n - 3 = \left(\frac{2}{3}\right)^{n-1} (b_1 - 3)$$

$b_1 = a_1 = 1$ だから

$$b_n = 3 - 2\left(\frac{2}{3}\right)^{n-1}$$

よって

$$a_n = 3^{n-1}b_n = 3^n - 2^n \quad (\text{答})$$

(3) 漸化式は

$$a_{n+1} + 3(n+1) + 3 = 2(a_n + 3n + 3)$$

と変形できるから、 $\{a_n + 3n + 3\}$ は公比 2 の等比数列である。よって

$$a_n + 3n + 3 = 2^{n-1}(a_1 + 6)$$

$a_1 = 2$ だから

$$\begin{aligned} a_n &= 8 \cdot 2^{n-1} - 3n - 3 \\ &= 2^{n+2} - 3n - 3 \quad (\text{答}) \end{aligned}$$

【2】(1) 帰納的に $a_n \neq 0$ だから、与式の両辺の逆数をとると

$$\frac{1}{a_{n+1}} = \frac{a_n + 1}{a_n} \quad \therefore \quad \frac{1}{a_{n+1}} = 1 + \frac{1}{a_n}$$

よって、数列 $\left\{\frac{1}{a_n}\right\}$ は初項 $\frac{1}{a_1} = 1$ 、公差 1 の等差数列であるから

$$\frac{1}{a_n} = 1 + (n-1) = n \quad \therefore \quad a_n = \frac{1}{n} \quad (\text{答})$$

(2) 帰納的に $a_n > 0$ だから、与式の両辺について、2 を底とする対数をとると

$$\begin{aligned} \log_2 a_{n+1} &= \log_2 8a_n^2 \iff \log_2 a_{n+1} = 2 \log_2 a_n + 3 \\ &\iff \log_2 a_{n+1} + 3 = 2(\log_2 a_n + 3) \end{aligned}$$

よって、数列 $\{\log_2 a_n + 3\}$ は初項 $\log_2 a_1 + 3 = 3$ 、公比 2 の等比数列であるから

$$\log_2 a_n + 3 = 3 \cdot 2^{n-1} \quad \therefore \quad \log_2 a_n = 3(2^{n-1} - 1)$$

ゆえに

$$a_n = 2^{3(2^{n-1}-1)} = 8^{2^{n-1}-1} \quad (\text{答})$$

【3】 $n+1$ 桁の自然数の各位の数の和が偶数になるのは

(I) 1 の位が 2 または 4 であり、上 n 桁の各位の数の和が偶数である。

(II) 1 の位が 1 または 3 または 5 であり、上 n 桁の各位の数の和が奇数である。

のいずれかであり、これらは排反であるから、 $n = 1, 2, \dots$ に対して

$$\begin{aligned} p_{n+1} &= \frac{2}{5}p_n + \frac{3}{5}(1 - p_n) \\ \iff p_{n+1} - \frac{1}{2} &= -\frac{1}{5}\left(p_n - \frac{1}{2}\right) \end{aligned}$$

が成り立つ。よって、数列 $\left\{p_n - \frac{1}{2}\right\}$ は

$$\text{初項 } p_1 - \frac{1}{2} = \frac{2}{5} - \frac{1}{2} = -\frac{1}{10}, \text{ 公比 } -\frac{1}{5} \text{ の等比数列}$$

であるから、求める p_n は

$$\begin{aligned} p_n - \frac{1}{2} &= -\frac{1}{10}\left(-\frac{1}{5}\right)^{n-1} \\ \therefore p_n &= \frac{1}{2}\left(-\frac{1}{5}\right)^n + \frac{1}{2} \quad (n = 1, 2, \dots) \end{aligned}$$

となる。 (答)

【4】 まず、与えられた S_n の漸化式より、一般項 a_n の漸化式を作る.

$$S_{n+2} - 8S_{n+1} + 15S_n = n \quad (n \geq 1) \cdots \textcircled{1}$$

$$S_{n+1} - 8S_n + 15S_{n-1} = n - 1 \quad (n \geq 2) \cdots \textcircled{2}$$

$n \geq 2$ のとき、 $\textcircled{1} - \textcircled{2}$ より

$$(S_{n+2} - S_{n+1}) - 8(S_{n+1} - S_n) + 15(S_n - S_{n-1}) = 1$$

$$\therefore a_{n+2} - 8a_{n+1} + 15a_n = 1 \quad (n \geq 2) \cdots \textcircled{3}$$

また、 $\textcircled{1}$ で $n = 1$ とおくと

$$(a_1 + a_2 + a_3) - 8(a_1 + a_2) + 15a_1 = 1$$

$$\therefore a_3 = 1 \quad (\because a_1 = a_2 = 0)$$

よって、 $\textcircled{3}$ は $n = 1$ のときも成り立つ. したがって

$$a_{n+2} - 8a_{n+1} + 15a_n = 1$$

$$\iff a_{n+2} - (3+5)a_{n+1} + 3 \cdot 5a_n = 1$$

であるから

$$\begin{cases} a_{n+2} - 3a_{n+1} = 5(a_{n+1} - 3a_n) + 1 \cdots \textcircled{4} \\ a_{n+2} - 5a_{n+1} = 3(a_{n+1} - 5a_n) + 1 \cdots \textcircled{5} \end{cases}$$

と変形できる. $\textcircled{4}$ より、 $b_n = a_{n+1} - 3a_n$ とおくと

$$b_{n+1} = 5b_n + 1$$

$$b_{n+1} + \frac{1}{4} = 5\left(b_n + \frac{1}{4}\right)$$

$$\begin{aligned} \therefore b_n &= 5^{n-1} \left(b_1 + \frac{1}{4}\right) - \frac{1}{4} \\ &= \frac{1}{4} \cdot 5^{n-1} - \frac{1}{4} \cdots \cdots \textcircled{6} \quad (\because b_1 = a_2 - 3a_1 = 0) \end{aligned}$$

同様に、 $\textcircled{5}$ において、 $c_n = a_{n+1} - 5a_n$ とおくと

$$c_{n+1} = 3c_n + 1$$

$$c_{n+1} + \frac{1}{2} = 3\left(c_n + \frac{1}{2}\right)$$

$$\begin{aligned} c_n &= 3^{n-1} \left(c_1 + \frac{1}{2}\right) - \frac{1}{2} \\ &= \frac{1}{2} \cdot 3^{n-1} - \frac{1}{2} \cdots \cdots \textcircled{7} \quad (\because c_1 = a_2 - 5a_1 = 0) \end{aligned}$$

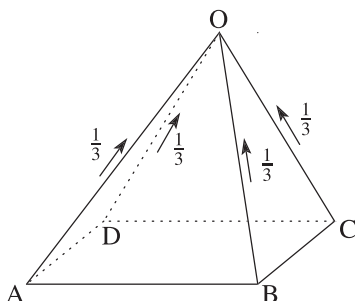
$\textcircled{6} - \textcircled{7}$ より、 $b_n = a_{n+1} - 3a_n$, $c_n = a_{n+1} - 5a_n$ に注意して

$$2a_n = \frac{1}{4} \cdot 5^{n-1} - \frac{1}{2} \cdot 3^{n-1} + \frac{1}{4}$$

$$\therefore a_n = \frac{1}{8} \cdot 5^{n-1} - \frac{1}{4} \cdot 3^{n-1} + \frac{1}{8} \quad (\text{答})$$

- 【5】題意の規則より，ある時点で P が O にあるとき，その 1 秒後に， P は A, B, C, D の各頂点に確率 $\frac{1}{4}$ で移動する．また，ある時点で P が A, B, C, D にあるとき，その 1 秒後に，どの頂点からも，確率 $\frac{1}{3}$ で O に移動する．

図 23.1



いま， n 秒後に P が O にある確率を p_n とおく．すると， $n+1$ 秒後に P が O にあるためには， n 秒後に P は A, B, C, D のいずれかの頂点にある必要があり，その確率は

$$1 - p_n$$

このもとで，各頂点から確率 $\frac{1}{3}$ で O に移動する．したがって

$$\begin{aligned} p_{n+1} &= \frac{1}{3}(1 - p_n) \\ \therefore p_{n+1} - \frac{1}{4} &= -\frac{1}{3}\left(p_n - \frac{1}{4}\right) \end{aligned}$$

よって，数列 $\left\{p_n - \frac{1}{4}\right\}$ は公比 $-\frac{1}{3}$ の等比数列である．また， $p_1 = 0$ より

$$p_1 - \frac{1}{4} = 0 - \frac{1}{4} = -\frac{1}{4} \quad \therefore p_n - \frac{1}{4} = -\frac{1}{4}\left(-\frac{1}{3}\right)^{n-1}$$

したがって，求める確率は

$$p_n = \frac{1}{4}\left\{1 - \left(-\frac{1}{3}\right)^{n-1}\right\} \quad (\text{答})$$

【1】(1) 与式より

$$\begin{aligned}
 a_{n+1} + b_{n+1} \sqrt{3} &= (2 + \sqrt{3})^{n+1} \\
 &= (2 + \sqrt{3})(2 + \sqrt{3})^n \\
 &= (2 + \sqrt{3})(a_n + b_n \sqrt{3}) \\
 &= (2a_n + 3b_n) + (a_n + 2b_n) \sqrt{3}
 \end{aligned}$$

であるから、有理数部分と無理数部分で係数を比較して

$$\begin{cases} a_{n+1} = 2a_n + 3b_n & \cdots \textcircled{1} \\ b_{n+1} = a_n + 2b_n & \cdots \textcircled{2} \end{cases} \quad (\text{答})$$

(2) 条件より

$$a_n + b_n \sqrt{3} = (2 + \sqrt{3})^n \cdots \textcircled{3}$$

また、 $\textcircled{1} - \textcircled{2} \times \sqrt{3}$ より

$$\begin{aligned}
 a_{n+1} - b_{n+1} \sqrt{3} &= (2 - \sqrt{3})a_n + (3 - 2\sqrt{3})b_n \\
 &= (2 - \sqrt{3})(a_n - b_n \sqrt{3})
 \end{aligned}$$

よって、数列 $\{a_n - b_n \sqrt{3}\}$ は初項 $a_1 - b_1 \sqrt{3} = 2 - \sqrt{3}$ 、公比 $2 - \sqrt{3}$ の等比数列であるから

$$\begin{aligned}
 a_n - b_n \sqrt{3} &= (2 - \sqrt{3}) \cdot (2 - \sqrt{3})^{n-1} \\
 &= (2 - \sqrt{3})^n \cdots \textcircled{4}
 \end{aligned}$$

$(\textcircled{3} + \textcircled{4}) \div 2$ より

$$a_n = \frac{(2 + \sqrt{3})^n + (2 - \sqrt{3})^n}{2} \quad (\text{答})$$

また、 $\textcircled{3} - \textcircled{4}$ より

$$\begin{aligned}
 2\sqrt{3}b_n &= (2 + \sqrt{3})^n - (2 - \sqrt{3})^n \\
 \therefore b_n &= \frac{(2 + \sqrt{3})^n - (2 - \sqrt{3})^n}{2\sqrt{3}} \\
 &= \frac{\sqrt{3}}{6} \{(2 + \sqrt{3})^n - (2 - \sqrt{3})^n\} \quad (\text{答})
 \end{aligned}$$



会員番号	
------	--

氏 名	
-----	--